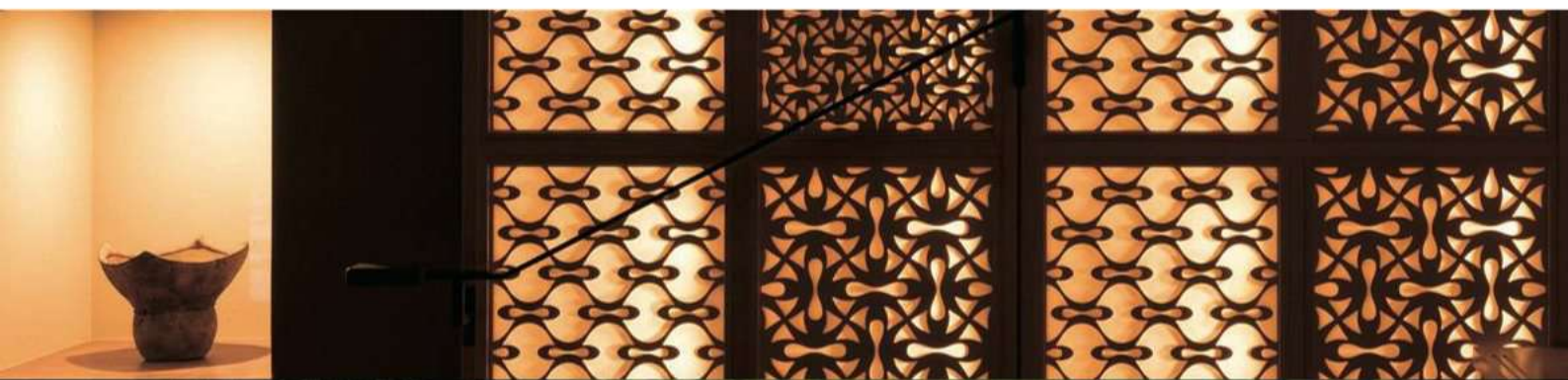




鶴雅の
思いをカタチにした人たち



地域価値を生み出す 「郷土力」

北の縄文からアイヌ、そして現代へ

碧の座

株式会社 太極舎イエローデータ
代表 岡部 泉

「郷土力」という言葉

この言葉は、鶴雅の最初の仕事となった「鄙の座」の企画をたてる時に考えた造語です。「郷土」と似た言葉に「風土」があります。和辻哲郎著「風土」にあるように「風土とは、単なる自然環境ではなくして、人間の精神構造の中に刻みこまれた自己了解の仕方にならなく」と書かれています。つまり、土地の気象、地質、景観などだけでなく、人の暮らしや歴史や文化といった人と自然の相関関係で作られるものであるということです。私なりの解釈ですが、「郷土」は「風土」よりも主体的な故郷という愛着が込められているように感じます。未来の故郷に、その愛着を持続させるために、地域経済の活性化をはかり、地域価値を生み出す力を「郷土力」という言葉で表現しました。この「郷土力」という言葉は、嬉しいことに鶴雅の社訓にも加えられています。

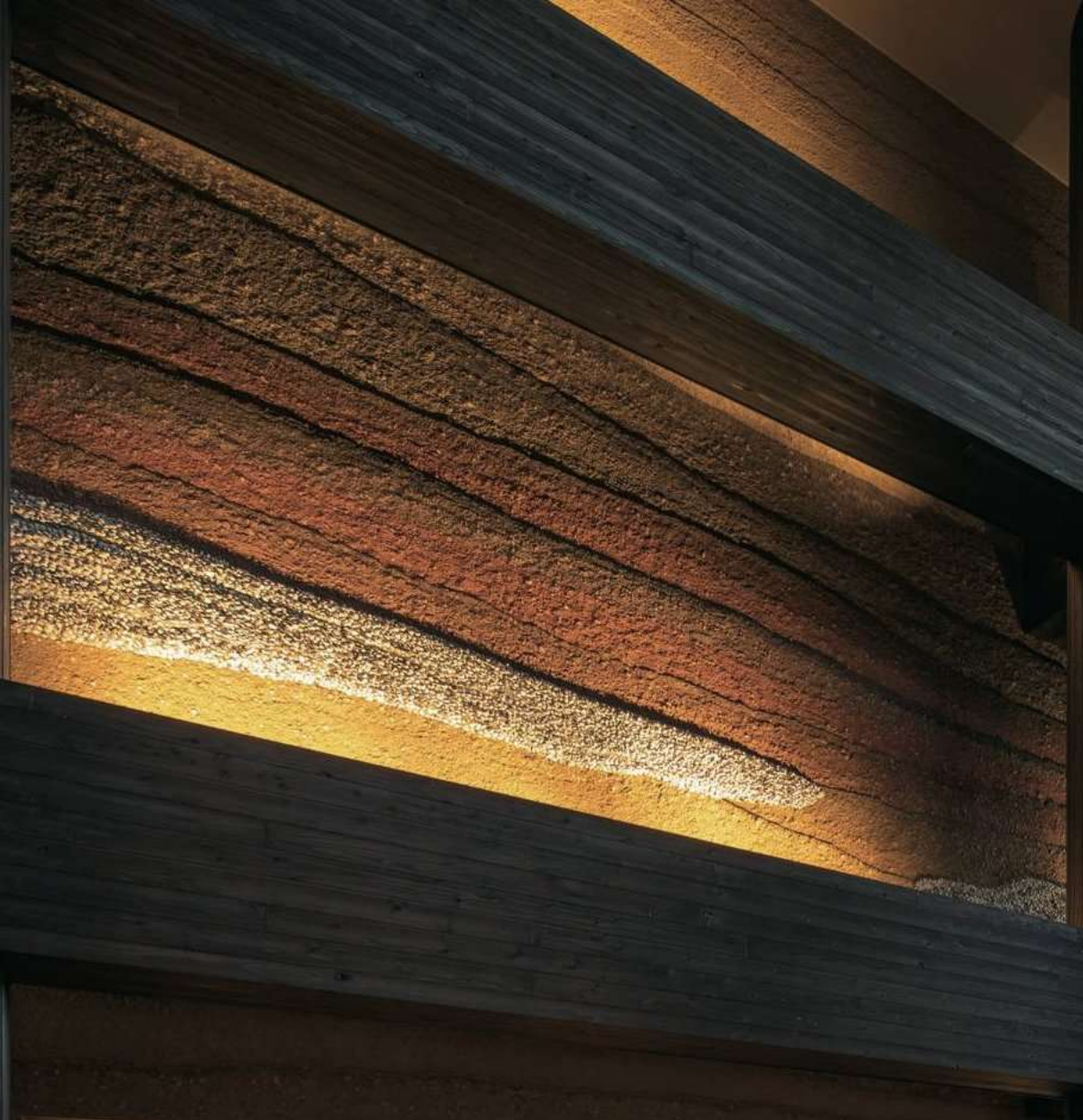
地域の文化特性からコンセプトを引き出す

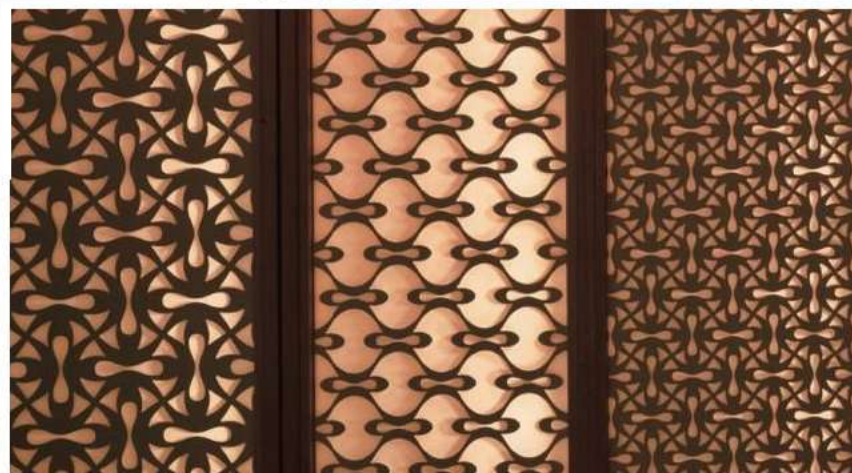
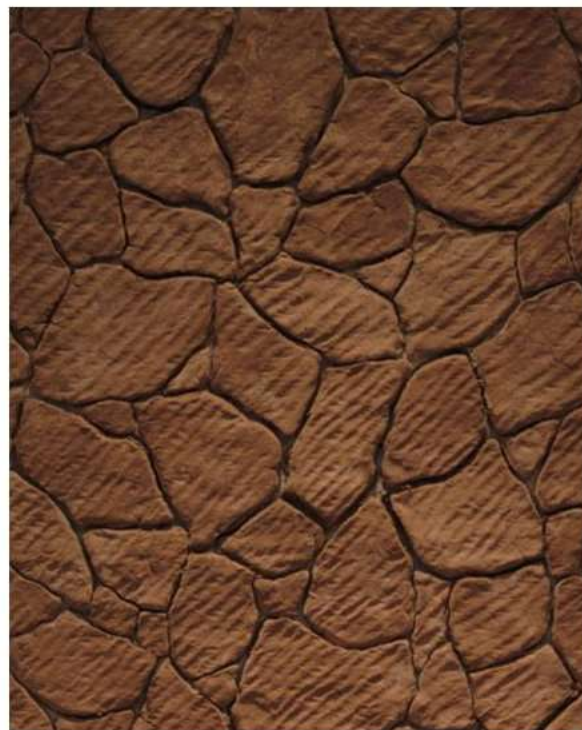
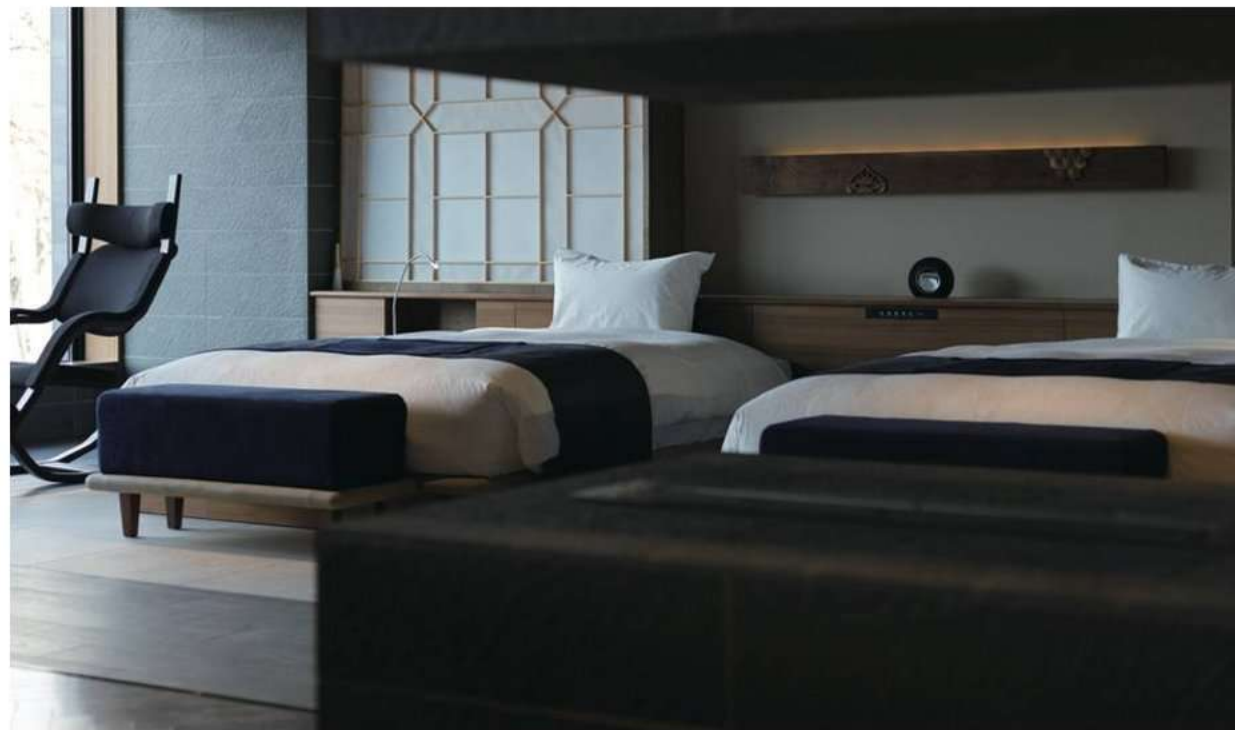
鶴雅の新しい価値のある旅館づくりを目標にしてから、二十年ほどが経ちます。アイヌ文化との橋渡しとなった阿寒湖の鄙の座から、オホーツク文化を新たな観光軸にした網走湖の北天の丘、最北の縄文文

化を再認識した支笏湖の碧の座まで、地域文化と地域資産を辿りながらそれぞれの旅館にふさわしいコンセプトを引き出してきました。コンセプトは、企画の軸がぶれないようにする背骨のようなものです。この旅館が十年後も持続していくために何が必要なのかを、社会の価値観と照合しつつ、悩みながら考えてきたと思います。地域の文化を取り上げる際には、まず歴史や言葉、現状を調べます。文化は尊重されるべきものですが、恐れ過ぎていけないのです。今も昔も、文化は民衆によつて本質を見極めながら、時代の価値観によつて進化しています。コンセプトも郷土力も同様に時代と共にアップデートされるのです。

内から外に向かう設計とディテールの調和

私は建築家ではありません。資格がないことで業界では怪訝に思われることがよくあります。それでも私なりの考えで、空間を作っています。外観の形がコンセプトを示すこともあり、シンボルとしての価値を与えることもあります。予算が限られた旅館では、滞在時間が長い内部の居心地を優先するのが合理的であると考えています。旅館の構想を考える時は、内側のレイアウトを考えてから外観の立面図との整合性を考えます。レイアウトの起点は、お客様が館に入る時の第一印象です。最初の一步の感動の先には何があったらいいのだろうか、光は、影は、音は、色は、形は、質感は。模索を繰り返しアウトラインができていきます。旅館は至近距離にあるものが価値となる「暮らす」商環境です。調度品、家具、器、寝具、館内着など、目に近く手に触れ体を預けることができるものたち。些細なことばかりですが、小さな驚きや安堵が個性になります。「細部に魂が宿る」という言葉がありますが、様々なディテールが調和してこそ、美しいと感じます。





「館名の由来」

「碧の座」の「碧」は訓読みで、「あお」や「みどり」と読みます。寶石を意味する「王（玉）」と輝くことを意味する「白」が組み合わさり、光り輝く宝石のような石を表現しています。

「座」とは、人が集まり場ができるところを指します。変幻自在に色を変えて輝く支笏湖ブルーの「碧」のある館という意味でこの名をつけました。ロモークは、ターコイズのブルーの積層と縄文からアイヌへと続く折りの文様をイメージしました。

手の仕事

私の得意な分野として、「手の仕事・工芸」があります。日本の工芸技術、左官、漆、木工、鍛鉄などを人の目に触れる場所で生かしたいという思いがあります。優れた手の技術は、活用されなければ継承できなくなるからです。碧の座では、北の縄文のテーマに沿って土壁に力をいれました。左官の名工、久住章氏にお願いできたことで、空間に力が与えられました。ロビーの縄文時代の積層をイメージした壁には、チーム全員で足場に座って二万五千個のしじみを入れ込んだり、ラウンジの暖炉は、私が紋様を描いた五メートルの原寸大の紙をそのまま貼って巨大な縄文土器の暖炉にしてみました。優れた技術者に出会って一緒に考え、予想を超える仕事になった時に、空間作り最高の醍醐味を感じます。

館に人格を持たせる

もうひとつ、私の脳内旅館づくりの手法として、かなり早い段階で、館に人格を持たせて妄想していくことです。例えば、阿寒湖の隣の座は、遠い北の国で根をおろした芯の強い女性です。どこか母親のような包み込まれるような懐かしい空間を表現しました。網走湖の北天の丘は、空を翔るような勇壮な青年です。瀧口政満先生にお願いした大鷲と鯨の木彫がある力強いラウンジそのものです。支笏湖の水の調は、気持ちの温かい癒し系の働き者です。水の調に行くとなぜかほっとするのは、優しいお姉さんのようだからでしょうか。同じ支笏湖の碧の座は、堂々とした懐の深い知的な学者です。碧の座に入るとちゃんと背筋が伸びて、いろいろなことを深く考えくなります。ひとつひとつが強い想いのある館でした。しかし、延期や中止になった

り、基本設計後に手放す館については、想いの分だけ挫折感を感じます。ようやく2026年、支笏湖に「水の調」「碧の座」に次いで、「湖白の抄」が誕生します。どんな人格の館になるのか楽しみです。

楽しく頼もしいチーム

旅館づくりは、コンセプトから企画、設計、デザイン、施工監理まで五年あまりかかります。その長い時間を有意義に過ごすことは、当然一人の力では叶いません。私には感謝しきれないほどの力を与えてくれるチームがあります。図面から現場までを監理してくれるチームリーダーの吉野進君、東京本部で細かな調整をしてくれている高梨和良君、彼らをはじめ、家具製作のあさひウインドの酒井昭男社長、アトリエ・トコトワの加藤貴常氏、サイン工事の日の出工芸の丹治克司氏。「現場は真剣且つ楽しく」を実現してくれるチームです。最後に、無理難題にも挑戦してくれたゼネコンの所長と皆さま、いつも悩みを共有してくれる同志のような山田勝晴社長に、これまでの感謝を心より申し上げます。



株式会社 太極舎
イエローデータ代表
岡部 泉

多摩美術大学卒業
子供の頃より日本の工芸に関心があり、茶道、書道に親しむ。大学では、コンセプチュアルアートを中心に現代美術を専攻。その後、陶器、漆器、食品などの商品開発から、旅館の建築を含めたトータルブランディングを行い現在に至る。

Task

総合プランニング コンセプトワーク/建築基本設計 内装・意匠設計/空間アートデザイン/インテリアデザイン ロゴデザイン サインデザイン/レストラン器デザイン/室内着・制服デザイン/販売ツールデザイン 家具・備品コーディネート

《鶴雅の主案件》

- 2019年 「しこつ湖鶴雅別荘 碧の座」
- 2016年 「函館大沼鶴雅リゾート エブイ」
- 2013年 「ニセコ長布温泉鶴雅別荘 空の抄」
- 2012年 「あかん湖 鶴雅ウィングス」
- 2010年 「定山溪鶴雅リゾートスバ 森の調」
- 2009年 「しこつ湖鶴雅リゾートスバ 水の調」
- 2008年 「屈斜路湖鶴雅オーベルジュ SoRa」
- 2007年 「北天の丘 あばしり湖鶴雅リゾート」
- 2006年 「あかん遊久の里 鶴雅 レラ」
- 2004年 「あかん湖鶴雅別荘 湖の座」



鄙の座からはじまった ご縁に感謝を込めて

株式会社 柳 建築設計事務所
代表取締役 河合 篤司

鶴雅グループ70周年おめでと
うございます。大西社長と新橋
で初めてお会いしてから22年が
経ちました。

下呂温泉の小規模旅館に泊ま
られた後、設計者の私に連絡を
頂き、ホテルロビーで打合せ致し
ました。

阿寒湖畔の旅館を購入し、高
額旅館に改築したいとお話で
した。その場で「鄙の座」の構想
がまとまり、設計・見積・工事と
進み、2004年にオープンとな
りました。70室のホテルは吹き抜
けの玄関で靴を脱ぎ、床暖房の
板の間、畳廊下、25室の露天風呂
付客室の和風旅館に生まれ変わ
りました。

2005年には鶴雅50周年を
迎えました。その後しばらく、旅
館は建てるよりは買う時代が続

きます。2007年「北天の丘」、
2009年「水の譚」、2010年
「森の譚」、2013年「奎の抄」
と連続してお手伝いをさせて頂
きました。

ここ数年の高付加価値補助金
事業でも露天風呂付客室は注目
され、全国の温泉地に随分と増
えました。

一方では高額のインバウンド客
が増え、大手資本が箱根を中心
に露天風呂付客室の旅館・ホテル
を続々と新築しています。

この度「鄙の座」の増築の相談
を頂きました。インバウンド客の
ニーズに応える「新たな和の空
間」を考えています。

鶴雅グループの今後益々の発
展を微力ながら応援していきたく
と思います

日帰りスパ水の譚 2009

観光経済新聞
掲載記事より

初夏にオープンしたスパリゾートホテルを晩秋
に訪れた。露天風呂付客室を更に増やしたいとの
相談である。当初より客室の半分以上を露天付客室と
する計画であったが、投資バランスを考えて二期工
事ではスパ・レストランゾーンに力を入れた。オープ
ンして半年間の実績では露天付客室の人気の高く、
一般客室よりも予約が先行する。そこで様子をみて
から露天風呂を付ける予定であった客室の改
築を早める事となった。

一方では日帰り入浴客の入込も多い。入浴だけ
でなくランチバイキングの人気の高い。バイキング
二千円＋入浴千円、合計三千円で半日ゆつくり過
せる。エントランスであるピロティのウエルカムラウ
ンジは共通だが宿泊客は更に五十メートル程の渡
り廊下を歩いて宿泊棟の玄関に至る。日帰りスパ
玄関・レストランと宿泊棟は渡り廊下で分離され
ているので日帰り客と宿泊客とが館内で混在す
る事が無い。宿泊客が食事をする時は玄関で下
駄を履いて、再び渡り廊下・ウエルカムラウンジを
通つてレストランに行く。空間的にも泊食分離が

されている訳で、一旦外気を吸うことで気分も変
わりレストランへの期待も高まる。実は外を通つて
行くのは客のみで従業員の動線は二階で繋がって
おり、作業動線は短くなっている。つまり、客には
遠回りをさせて自然に触れ、ゆったりとした時間
を過してもらう仕掛けである。

レストランに付属するスイーツショップも人気
で、夏のシーズン中は一日三十万円の売り上げを
記録した。日帰り客や宿泊客が日持ちしない生
菓子を好んで自分や家族への土産として買って帰
る。又、日帰り客と宿泊客は別の客ではないそう
だ。オープン時に泊った家族が子供にせがまれて
もう一度日帰りで訪れ、日帰りで利用した人が今
度は泊つてゆつくりしようというリピートしている。札
幌や苫小牧・室蘭に近い立地が新たな客層を掴
んだようだ。

支笏湖では露天風呂付客室と日帰りコースの
二本立ての売り上げで新しいタイプのリゾートホ
テルとして順調にすべり出した。他の温泉地でも
日帰り客を積極的にもてなさなければと思う。



- 設計に関わった主な宿
- 花れぶん ● 鄙の座
 - 水の譚 ● 滝の湯
 - 風の抄 ● ホテル木暮
 - 奈良屋
 - 軽井沢マリオットホテル
 - 強羅花扇・田の杜
 - 強羅白檀・玄 ● うぶや
 - 石花海 ● 十八楼
 - しゅげつ ● 戸田家
 - たちばな四季亭
 - グランディア芳泉
 - 大西屋水翔苑 ● なにわ水
 - さぎの湯荘
 - 松田家ホテル ● わんこあん
 - 琴参閣 ● 別邸わんこ日和

——宿る記憶、紡がれる物語を未来へ

今春、鶴雅グループ様が創業70周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

私が鶴雅様と初めてご一緒させていただいたのは1993年のこと。阿寒に誕生した「鶴雅別館」増築工事のデザインを担当したことが、新たな挑戦への幕開けとなりました。当時、大西代表の壮大で大胆なアイデア、そして鶴雅様の掲げる理念に触れながら共に空間を創り上げていった日々は、夢と情熱が交錯する成長の場でした。

その後も、2002年に初めて阿寒を飛び出し開業された「サロマ湖鶴雅リゾート」増改修工事、他多数のプロジェクトに関わらせていただいております。

そして昨年、20余年前にデザインを担当したサロマ湖鶴雅リゾートのレストランリニューアルを手がける機会をいただき、再びこの空間と向き合うことになり、私の胸にあの頃の熱い想いが鮮やかによみがえりました。

新たなレストランは、サロマ湖の雄大な夕日を背景に、悠久の時間を刻む常呂遺跡に想いを馳せる特別な時間を過ごせる空間をコンセプトに、お客様それぞれの心に、深く響く場となるように……。そして、レストランは新たな命を吹き込まれ、訪れる方々の旅の思い出に残る空間へと生まれ変わりました。永い時を経て、自らの手で

再び創造できたことは、これ以上ない喜びでありました。現在は、あかん鶴雅別館の貴賓室改修工事に取り組んでおります。これまでの30余年の軌跡を振り返りながら、時代や阿寒の風土を踏まえ、今後20年、30年と活きる鶴雅らしい客室づくりを目指し、ひとつひとつ丁寧に紡いでおります。

鶴雅様とのご縁をいただいていたからの年月は、皆さまのたくさんのお想いを具現化しながら、創造の喜びを分かち合う時間でもありました。また、このような出会いをきっかけに、道東地域の様々な方々とのご縁にもつながり、病院・公共施設・寺院の建設など、地域創成に関わる多数のプロジェクトにも参加させていただく機会にも恵まれ、私にとつての道東は、特別な想いが込められた地でもあります。

結びにあたり、鶴雅グループ様のさらなるご発展と、未来へと続く新たな物語が、これからも輝かしいものでありますように……。改めまして、70周年という素晴らしい節目を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。



PROFILE
有限会社 ポイント・ライン
代表取締役 荒川 三枝子
〒063-0828
北海道札幌市西区発寒8条10丁目4-20
TEL.011-662-8720 FAX.011-662-8721
Mail: design@pointline.co.jp



——洞爺湖の自然と呼応し、五感に響く「洗の舘」をめざして

鶴雅様、創立70周年おめでとうございます。

鶴雅グループ様14番目の施設として2023年3月に竣工され、弊社で設計・総合デザイン監修をさせていただいた「洞爺湖鶴雅リゾート 洗の舘」についてお話しさせていただきます。

初めて計画地を訪れた際に、昭和新山、有珠山を間近に感じ、洞爺湖の広い水面の拡がりや湖面越しに望む羊蹄山ニセコアンスプリと圧倒的な地球的風景を一望できる事に、「場所」としての強い力を感じました。

広大な敷地（56,000㎡）に樹木・植物を植栽し、周囲の森と四季の移ろいを全身で楽しめる環境を創る事で宿と地球的風景が融合し、全身の五感に深く響く唯一の宿を多角的に創造する事を心掛けました。

宿は、土地の持つ地域性に徹底的にこだわり、歴史・文化・洞爺湖・水面・豊かな森・草花をモチーフに空間の構成・表現へ複雑に織り込み、また滞在時間に体感する空間・時間が重なる事で、この大地の豊かさへと全身が融合します。玄関アプローチから歩き進めると、縄文の伝統である麻を用いた漆のカウンターと、檜材で製作した洞爺湖のモチーフが飾られたフロントが訪れる人々を迎えます。火のラウンジ「淡の灯」は湖の波紋をイメージ

し、木と光の反射を表現した暖炉でゆったりと寛ぐことができます。水盤に浮かぶ音楽堂「洗響」は、木漏れ日の中で極上の音楽を楽しむ北海道産材が使われた木造空間であり、洗響から続く東方（アイヌの人々）が大切にした方角とされています。へ真っ直ぐ伸びる「洗の路・洞爺テラス」から天空と地球的風景に繋がり、宿と大地が融合する大切な空間です。

客室は全12タイプ48室あり、レイクビューを基本に北海道にこだわった素材家具により質感の高い快適で温かな空間を心掛けました。また、ランドスケープと館内に北海道をモチーフとしたアートを各所に組み込み物語を幾重にも重ねることで、言語を介さずとも、グローバルな時代に訪れる全ての人々に理解され喜んでいただけるよう工夫しました。そして鶴雅様が創造される最上の料理に、敷地内のファームがもたらす大地の生命力が加わり、一流のおもてなしで心と身体に深く響く、記憶に残る宿を目指しました。

雄大な洞爺の地で鶴雅様が目指される宿として、時代の変化をしつかりと捉えた、人々に愛される宿として「層」発展される事を心より願っております。



PROFILE
株式会社 遠藤建築アトリエ
代表取締役 遠藤 謙一良
北海道札幌市中央区北4条西20丁目1-18
TEL.011-644-0070 FAX.011-644-0071
Web: www.endo-aa.net

- 公益社団法人 日本建築家協会 北海道支部 フェロー
- 2025年4月—札幌市立大学デザイン学部 特任教授



洞爺湖 鶴雅リゾート 洗の舘
水上ラウンジ「洗響」



洞爺湖 鶴雅リゾート 洗の舘
昭和新山と「洞爺テラス」

——旅する人に寄り添う、地の物語をたのしむ空間

創業70周年を迎えられ、誠におめでとうございます。

この晴れやかな節目を迎えられましたことはひとえに大西代表をはじめ鶴雅グループの皆様方のたゆまぬご努力の成果とお慶び申し上げます。長い歩みの1ページを刻むにあたり、建築・内装デザインの面で微力ながらお手伝いできたことを大変嬉しく思います。

思い返せば7年前、2018年にあかん遊久の里鶴雅と鶴雅ウイングスを結ぶ空間にビクターガイドセンタ―「阿寒アドベンチャーベースSIRI」を設計させていただいたことが始まりでした。北海道の観光事業をさらに発展させる試みの一つであるATT(A)アドベンチャートラベル・トレッド・アソシエーションを推進させる発信基地として生まれたこの施設を皮切りに、以降道内に点在する各館にも「SIRI」が設けられることとなりました。

その後新型コロナウイルス流行の影響により世界的に観光業界の苦境が続く中、少数グループ中心の旅の形にシフトしていく状況に対応するべく、鶴雅ウイングス「湖側デラックス和洋室」客室改装、ザ・フォレスト阿寒(旧花ゆう香)の個人客向け客室改装と「BAR DEPAN」新設、あかん遊久の里鶴雅料亭「北璃宮」のフルリニューアルを行い、また阿寒湖周辺に新たな場を作る試みとして「AAG 阿寒アートギャラリー」の新設、「まりも足湯

ウレカリブ」の新築など連続して多数のプロジェクトに関わらせていただきました。四季を通して数えきれないほど札幌と阿寒を行き来したことがとても印象深い思い出です。

また近年では2023年9月に竣工した「ヒルトップヴィレッジ IZUBA」の全体設計デザインを担当できたことが弊社にとつて大きな出来事です。北天の丘あばしり湖鶴雅リゾートに隣接する10,000㎡超の敷地に5つのヴィラと3つのツリーハウス・サウナ棟やSIRI棟を備えるこの施設の新築は私たちが関わった中で最も大規模なプロジェクトであり、完成にあたり大きなエネルギーを要したと同時に、大変やりがいを得たものになりました。

ここ数年関わらせていただいた道内各地での様々な案件により、それまで関わり得なかった地域の人々との繋がりを持つことができました。単なる設計実績という意味を超えた経験を積ませていただき改めて感謝を申し上げます。

今後の鶴雅グループの益々のご発展と一層のご繁栄をお祈りし、結びの言葉に代えさせていただきます。



PROFILE

ツマックデザイン株式会社

代表取締役 妻倉 慎司

北海道江別市大麻園町19番地の4

TEL.011-388-3698 FAX.011-388-3675

Mail: info@tsumac.jp Web: www.tsumac.jp

TSUMAC DESIGN WORK ROOM

北海道札幌市中央区大通西13丁目4-112

ABEビル302

TEL&FAX.011-200-0722



Hilltop Village IZUBA

2023年9月オープン



あかん遊久の里 鶴雅 料亭[北璃宮]

2021年12月リニューアルオープン